

教化センターだより

No. 405

発行日 2021年3月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



〈発行〉大阪教区准堂衆会

『 藤井善隆師講義抄録 浄土和讃 』

この人生を支えてくださる「いのちの真実」が人々の歴史を潜って南無阿弥陀仏というお念仏となり、親鸞聖人のお言葉となって今私達の所に届けられているのです。言葉の一言々々が私の在り方、生き様を照らし出してくださり、忘れていた自分自身を喚び返して下さる。その言葉を繰り返し口に称え唱和していくことによって、言葉の響きを身を以て聞いてゆく。そういういのちの呼びかけが聞けるか聞けないのか、一人ひとりの課題であります。

(はじめにより引用)



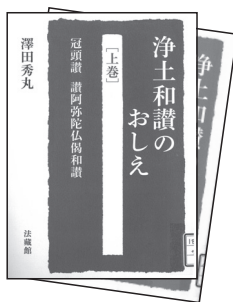
〈発行〉大阪教区准堂衆会

『 延塚知道師講義録 高僧和讃 』(一～三)

《一》龍樹菩薩・天親菩薩・曇鸞大師 編 / 《二》曇鸞大師 編 / 《三》道綽禪師・善導大師 編

高田の御草稿本と言われる和讃を見ますと、最初から圈発が付いています。ですから和讃は、皆で唱和することが前提でつくられた歌なのです。それは実は、揃わなかったからではないでしょうか。それぞれが感動して高くなったり、泣き出したりするから、きちんと揃えなさいということで圈発がついているのでしょう。その感動を後回しにすると、本末転倒して、よく揃っていても勤行が無味乾燥なものになってしまいます。

(はじめにより引用)



〈発行〉法蔵館

『 浄土和讃の教え 』(上・下)

[著者] 澤田 秀丸

和讃とは、中国語の漢語讃嘆、古代インド語(サンスクリット語)の梵語讃嘆に対して、日本語で七五調四句で表現された和讃讃嘆をいいます。讃嘆は、仏さまのはたらきを、深く感じ入ってほめ讃えることです。

宗祖親鸞聖人は、関東から帰洛して七十六歳から八十八歳にかけて『浄土和讃』『高僧和讃』を執筆され、続いて『正像末和讃』の三帖和讃など五百余首を著されました。

(はじめにより引用)

— 教化リーフレットの

活用について —

4枚の「教化リーフレット」

は、各寺院・教会において「寺報」

や個別に複写しての配布、同朋

会や聞法会での教材として活

用いただければ幸いです。

— 4月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」……安城由紀子

「日々のこころこころは

往生かなうべからず」

リーフレット②

「今月のよび」……松井 聡

「三不三信悔懺勸

像末法滅同悲引」

リーフレット③

「もしもし相談」……越本達彦

「お念仏は声に出さないと

いかならぬ」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

「カラスと山犬」

(敬称略)

日ごろのひ

こころにては

往生おうじょうかなう

べからず

『歎異抄たんししょう』

恩師の忘れられない言葉があります。

「いくら仏教を勉強しても、君自身が生きて死んでいく者にならなければ意味がない！」

これまで私の人生は、勝つか負けるか、良いか悪いかという相対的な分別による価値観が全てでした。厳しい社会を生き抜くためには、当然身につけなければならぬものです。しかし相対的な分別の目は常に外に向いているため、決して自身に目が向くことはありません。ですから、自身が生きて死んでいく者になるかどうかなど考えたこともありませんでした。そんな私に、「君のいのちに君自身が向き合わないでどうする！」と先生は厳しく仰いまし

た。この言葉は私に相当なショックを与えると同時に、その後の私の学びを決定づけました。私は生まれて初めて自身の生死を問い、学びました。

「日ごろのこころ」とは、相対分別の社会で懸命に生き抜こうとしていた私を言い当てた言葉でしょう。続く「往生かなうべからず」は「それでは君が本当に生きることにはならないし、その生を終えていくこともできないじゃないか」という先生の言葉と重なります。

「日ごろのこころにては、往生かなうべからず」とは、「本当の意味で生きて死んでいける者になりなさい！」という念仏者からの叱咤激励なのです。
(安城 由紀子)

三不三信 誨 慇 懃
像末法滅 同 悲 引

三不三信の誨、慇懃にして、
像末法滅、同じく悲引す。

道綽禪師は聖道の教
えでは証ることができ
ず、私たちが救われる道
はお念仏を申すこと（浄
土の教え）以外にない、
ということ強く勧めた
お方でありました。
何故かという、時機
相応ということが契機
になっていきます。時機
の“時”は時代というこ
とで、お釈迦さまの滅後
五百年までは正法（正法
が一千年、像法が次の一千年
の説もあり）と言って、直
接のお弟子さん方もおら

れ仏道修行をして証
る者も多くいたので
すが、像法の時代（次
の一千年）になると
修行をしても証る人
がいなくなつて、そ
の後には末法です。修
行する人も、証る人
もいなくなつて教えだけ
が残つて、やがて教えも
滅びて行く（法滅）時代
がやってくるのです。
禪師の時代は像法から
末法で、残っている教え
が滅びてしまうことに危
惧して悲しんでおられた
のです。
そして、時機の“機”
は私たち人間のことで、
その時代に生きる人々の
質が低下して、個人や民
族・国の主張が強くなり、
傷つけあい殺しあい、時
には戦争になったりもす

る。こういう煩惱に縛ら
れた凡夫であるからこ
そ、浄土の教えが独立し
たのであります。
さらに、三不三信とは
三不信と三信を略したも
ので、三不信とは不淳
心（純粹でない心）・不
一心（あれもこれもとい
う心）・不相続心（続か
ない心）で、もともと曇
鸞大師の教えであり、そ
こに道綽禪師は三信（淳
心・一心・相続心）を付
け加えられました。お念
仏を申していく上で、救
われることを信じて三信
を保ちなさい、というこ
とだけを教えると却って
三不信の心が生まれるも
のです。禪師は信じるこ
とと、疑う不信の心の両
面から丁寧な教えて下さ
いました。

現代に生きる私たち
も、幸いにして救われる
教えが残っているのに、
救いとならないのは、私
たちの側の問題で、煩惱
具足の凡夫と信知して、
像末・法滅に生きる凡夫
がかえって本願の機であ
ることに目覚めなければ
なりません。

信心は如来のお心であ
ります。私が申すお念仏
のところ賜（たまわ）つてくるお
心であり、ともすると私
が起す信心と錯覚す
る、この辺を禪師は懇切
丁寧にお智し下されたの
でありました。

（松井 聰）

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

206頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

もしもし相談



お念仏は声に出さないといけない？

問

お寺で法話などのお話を聞くのが好きで、よく足を運びます。お話の中で「お念仏申しませう」とよくいわれます。

お話を聞けば素晴らしいことだと思うのですが、人前では恥ずかしくてなかなか声に出してとえられませんか。やはり声に出さなければいけないのでしょうか。

(54歳・女性)

答

僧侶の「念仏申しませう」という言葉に「声

に出さなければいけないのか」という問いをもたれたのは大切なことだと

思います。ただ、人前で称えるのは難しく、私も恥ずかしくて称えにくいです。「本当に阿弥陀さんを信じて称えているのか」「口先だけで心がこもっていないのでは」と、ふと考えた時に声に出せなくなることはありません。それは、「信心を得ていない者が念仏しても意味がないのでは」と思ってしまうからです。

そのことで藤場俊基先生からこんなお話を聞きました。「ナンマンダブツ」と言う九官鳥がいるとする。その九官鳥が「ナンマンダブツ」と言うようになつた理由として考えられる事は、九官鳥のそばに朝から晩まで「ナンマン

ダブツ、ナンマンダブツ」とお念仏申している人がいるか、または誰かが九官鳥に教え込んだかのどちらかです。九官鳥が発している「ナンマンダブツ」の背景には、それを言わせている人がいるのです。私たちがお念仏申すことも同じで、自分一人で念仏申すようになった人は一人もいません。必ず誰かに教えられたり勧められたりしたはずで、その点では九官鳥も私たちも同じなのです。そしてその教えてくださった人もまた誰かに教えられた。それをずっと遡っていくと親鸞聖人にまで繋がっていくでしょう。

私が声に出している「ナンマンダブツ」の一声の

中には、本願念仏の歴史が集約されているのです。その一声には、それを受け継ぎ伝えてきた人びとの歴史があり、念仏申して生きていかれたあの人もこの人も繋がっているのです。そのことに気がつけば一人で居ても心賑やかですし、その繋がりにぬくもりも感じられます。その「気づき」を信心というのでしょうか。「ナンマンダブツ」と発せられた一声の背景を聞くことが大事なのです。

「お念仏申しませう」という呼びかけの言葉を大切に、共に臆せずに出すように心がけましょう。小さな声でもいいです。

(越本 達了)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (189)

カラスと山犬

① お腹が減ると…

山犬が荒野で食べ物をさがしていました

② おっ

美しいクジャクのようなカラスさま

私にも実を分けてもらえないだろうか

また次の日

③ やい!! ケチンボカラス! 実をよこせ!

かみ殺すぞ!

④ うわっ

腹が減って…死にそうだ

頼む… どうか 一口だけでも…

⑤ さら

さらに次の日

もうだめだ…

⑥ うわっ

ウソをついたり飾ったり脅かしたり

⑦ うわっ

うわっだけの願いは実を結ばない

⑧ ラッキー

⑨ コン

⑩ ハッ

⑪ 腹が減ってる本心を恥じたり隠すことはないのに

⑫ 悲しく なっちゃう

⑬

⑭

参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編 547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ 294)